

長崎スペイン世界友の会 設立4周年記念講演会

「南蛮貿易港の開港と長崎讓渡をめぐって」

く だ ま つ か ず の り

講師:久田松 和則 氏 (文学博士、富松神社宮司)

プロフィール:

昭和24年大村市に生まれる

昭和47年皇學館大学文学部国史学科卒業

長崎県立大崎高等学校教諭、大村市立資料館専門員を経て、現在富松神社宮司。

神社に奉仕する傍ら歴史研究を続け、平成19年に「西北九州における伊勢信仰の研究」によって博士(文学)の学位獲得。

* 主な著書

「大村史 琴湖の月日」(平成元年 国書刊行会)

「キリシタン伝来地の神社と信仰」(平成14年 富松神社再興400年事業委員会)

「伊勢御師と旦那 伊勢信仰の開拓者たち」(平成16年度 弘文堂)

要旨:

平戸に次ぐ南蛮貿易として開かれた横瀬浦港は、何故、当港が貿易港として選定されたのか、あまり明らかにされていない。しかし16世紀中ごろに博多に横瀬浦氏の存在が知られ、同氏の関係から開港の事情に迫る。

また伊勢御師の資料によって開港直前の長崎の実情を明らかにする。開港された長崎は、後にイエズス会へと讓渡される。その讓渡状はスペイン語訳文が2通現存し、讓渡の大きな理由として「devemos」(デベーモス)と記される。この言葉をめぐって邦文献と照合すると共に、スペイン文化を専門にされる方々の意見をも伺いたいと思う。

10月22日(土) 14時～16時
日本二十六聖人記念館3階ホール
(記念館3階、教会側の入口から)
入場無料 予約不要

主催者:「長崎スペイン世界友の会」

問い合わせ:田村(090 8830 4607)

事務所住所:長崎市中園町17-14

電話:095-844-3318

(火・木・土10:00-16:00)

